

スポーツにおけるハラスメント

～子どもを守り、自分を守り、仲間を守る～

琉球大学 教育学部 教授

(スポーツコーチング学)

三輪 一 義

1

本日のねらい

このテーマでは、

「自分のこれまで」を振り返る

- ① 仲間とDiscussionする
- ② 自分の考えをOutputする
- ③ 多様な価値観を知る

→Input(聴く)だけで終わらず、Output(話す)する

⇒言葉にすることで自分の意見をハッキリ持つ

⇒他人の考えを知ること自身を確認する

2

お願い事

どの**言葉**が印象に残っていますか？

それぞれ2つだけ選んでください

<Gディスカッションに必要>

3

スポーツ指導者のハラスメントを考える

ハラスメント・・・

他者に対する発言・行動等が**本人の意図とは関係なく**、
相手を不快にさせたり、尊厳を傷つけたり、不利益を
与えたり、脅威を与えること

4

スポーツを紐解く

1. スポーツの起源
2. スポーツの発展
3. スポーツの本質
4. スポーツの成立と発展の歴史
5. スポーツの矛盾
6. スポーツが持つ意味

5

スポーツの起源

人間以外の動物にもみられる「遊び」や「じゃれあい」
などに相当するコミュニケーション行動

動物の「遊び」や「闘争」を起源とした
古く根源的な営み

(森丘保典, 2017 : コーチング学への招待)

6

スポーツの発展

聖的なスポーツ

上流階級による「困難な課題の克服

に楽しみを見出す」 ≡(スポーツマンシップ)

俗的なスポーツ

大衆による「野蛮な行為を含んだ

気晴らしの活動」 ≡(勝利の追求)

7

スポーツの本質

「スポーツマンシップ」と「勝利の追求」の両立は困難な課題である



スポーツを純粋に遂行する（純粋に勝利を追求する）と、
どうしても「上げつない」「卑怯な」行為に走ってしまう



わざわざ「正々堂々」が喧伝され、「競技者は人格高潔であるべき」
と強調される

(森丘保典, 2017 : コーチング学への招待)

8

スポーツの本質

「**人間力の育成**」と「**競技力の向上**」は
相補的(お互いに補い合うような)関係にはない

(図子浩二, 2014)

たとえ立派な大人であっても勝利のために常軌を逸し
た行為に走るのは、不可避なことだと言わざるを得ない

(川谷茂樹, 2005)

9

スポーツの本質

スポーツのこの**本質的な危険性**を熟知し
それといかにうまく付き合うか
知恵を絞ることなのではないか

(川谷茂樹, 2005)

10

スポーツの成立と発展の歴史

スポーツは善にも悪にもなりうる
「**諸刃の剣**」という
文化的特性を有している

(森丘保典, 2017 : コーチング学への招待)

11

スポーツの矛盾

「スポーツマンシップと勝利の追求」
「成功と失敗」
「自立と依存」
「強制と放任」
と対峙しながら、**ダブルゴール**を目指す
ことが**現在のCoaching像**

12

スポーツの持つ意味

先史から現代に至るまで、
それぞれの**時代や社会特有の価値観**に
影響を受けつつ、社会的慣習を伴いながら
今日に至るまで継承されている

(コーチング学への招待：2017)

13

社会における 昔の常識・今の非常識

- | | | |
|----------|--------------|---------|
| ・天動説 | ・たき火、ゴミ焼却 | ・大学授業出席 |
| ・日光浴 | ・シートベルト | ・年金支給 |
| ・暗い場所の読書 | ・住所入り名簿 | ・歩きタバコ |
| ・水分摂取 | ・媒酌人(仲人) | ・ほろ酔い運転 |
| ・ウサギ跳び | ・ヤバいの意味 | |
| ・傷口消毒 | ・バレンタインに告白する | |

14

社会における 昔の常識・今の非常識

- | | | |
|----------|--------------|---------|
| ・天動説 | ・たき火、ゴミ焼却 | ・大学授業出席 |
| ・日光浴 | ・シートベルト | ・年金支給 |
| ・暗い場所の読書 | ・住所入り名簿 | ・歩きタバコ |
| ・水分摂取 | ・媒酌人(仲人) | ・ほろ酔い運転 |
| ・ウサギ跳び | ・ヤバいの意味 | |
| ・傷口消毒 | ・バレンタインに告白する | |

昭和→平成→令和

社会は大きく変わった

15

社会における 昔の常識・今の非常識

- | | | |
|----------|--------------|---------|
| ・天動説 | ・たき火、ゴミ焼却 | ・大学授業出席 |
| ・日光浴 | ・シートベルト | ・年金支給 |
| ・暗い場所の読書 | ・住所入り名簿 | ・歩きタバコ |
| ・水分摂取 | ・媒酌人(仲人) | ・ほろ酔い運転 |
| ・ウサギ跳び | ・ヤバいの意味 | |
| ・傷口消毒 | ・バレンタインに告白する | |

・家庭内しつけ

16

家庭内しつけ

社会に出て、必要な常識を身につけさせる目的。
ひとえに子どもために。将来の子どもを思う親心。
親の意思がすべて。子どもの気持ちは存在しない。
方法、程度は百人百様。(正解や常識や規準はない)
“痛み”や“恐怖”を与えて、行動制御する方法も？

家庭内暴力との境界はどこに

17

スポーツにおける体罰・暴言

試合に出て、必要な技術を身につけさせる目的。
ひとえに選手ために。将来の選手を思う親心として。
指導者の意思がすべて。選手の気持ちは存在しない。
方法、程度は百人百様。(自分の過去体験に因る)
“痛み”や“恐怖”を与えて、PLAY制御をする。

**「しつけ」と「体罰」を同じ意味合いで捉えて
いることが日本の根底に存在する**

18

スポーツにおける体罰・暴言

改正児童虐待防止法
改正児童福祉法
2019年6月19日可決
(2020年4月施行)

親は児童のしつけに際して
体罰を加えてはならない

19

グループディスカッション①

あなたの学生時代・教員時代の
体罰・暴言の経験について

体験談を交換下さい

20

体罰・暴言をしてはいけない理由（正論）

教育の場における体罰・暴言はいけない。

他人に対して暴力を振るうことは犯罪だ。

学校教育法という法律で禁止されている。

日本スポーツ協会が暴力撲滅宣言をしている。

体罰は人の道に反する行為である。

体罰・暴言は悪いことである

21

体罰・暴言を否定する言葉

体罰に頼って作り出される人間は体罰によってしか動かない。そんな人間を社会は必要としていないことを指導者もスポーツ界も認識する時期にきている。 山口香（柔道）

私は、体罰は必要ないと考えています。「絶対に仕返しをされない」という上下関係の構図で起きるのが体罰です。監督が采配ミスをして選手に殴られますか？スポーツで最も恥ずべきひきょうな行為です。殴られるのが嫌で、あるいは指導者や先輩が嫌いになり、野球を辞めた仲間を何人も見ました。スポーツ界にとって大きな損失です。 桑田真澄（プロ野球）

体罰がなぜいけないのか。それは、指示待ち人間を作るからです。体罰を受けた選手は萎縮し、指導者の顔色ばかりうかがうようになる。暴力で追い込むと、選手の競技力を向上させるどころか、将来の人生にも悪い影響を与えるのです。 為末大（陸上）

22

反論 体罰を否定する著名人は恵まれた人

一般のスポーツ選手や指導者は、彼らのような優れた才能を持つ人たちばかりではない。

トップアスリートは、スポーツ界を代表する存在ではあるが、より広く、裾野まで含むスポーツ選手全体の中では特殊な部類に属する少数派といえる。

彼らは才能があったから体罰・暴言を受けることなく才能を開花させることができたのではないか。

彼らのような優れた指導者の下には優れた選手が集まってくるがゆえに、体罰・暴言に頼ることなく成果を出すことができたのではないか。

23

「暴言」について考える

今の時代において、さすがに「体罰」をする指導者は少なくなっているかもしれない。

しかし、「暴言」はどうだろうか？

「暴言」＝言葉による暴力

→心罰→心に傷を負わすこと

24

「暴言」について考える

「暴言」は<大声><怒声><厳声><緊声>とは違う

「暴言」は「激しく怒ること(怒鳴る)」だけではない。

→ 『**人格否定**』

夢を折る、希望を失わせる、やる気を削ぐ、も暴言となりうる
小声でも、つぶやきでも、暴言となりうる

25

「暴言」について考える

こんな言葉を言ったことは？

こんな言葉を言われたことは？

26

「暴言」について考える

『ムカつく』

『辞めろ』

『何度言わせる』

『要らん』

『下手クソ』

『帰れ』

『無理だ』

『バカか』

『役に立たん』

『こんなことも出来んのか』

『あきらめろ』

27

「暴言」について考える

暴言は**自己発散**の象徴行為(感情的な暴走行動)

暴言による**心の傷**は**一生残る**ともいわれる

育成世代の国際大会において自チームの選手であってもベンチ前での**大声の叱咤**が監督のレッドカードに相当するとの事前通告を各国に通達した

28

体罰・暴言がおきる理由（心理背景）

組織や集団のミッションを達成するための「社会的パワー」を持つ人が、自分の立場や才能や能力を錯覚する

- 自分が絶対的な正義と信じていることにより、自分の思い通りに動かない人は間違っている人である
- 間違いを犯す愚かな弱者を導く英雄のような気持ち
- 強引に人を動かそうとし、相手批判がエスカレート
- 相手批判(選手批判)が「教育・指導」と称されて、人格を否定するような態度・行動

29

体罰・暴言がなくなる理由（社会背景）

「勝つためにはそれが当然だ」とする個人・組織の思い込み

結果が残れば、パワハラ体質も「名将」と持ち上げられ、メディアにより「感動ドラマ」に仕立て上げられてきた

権力的に弱い立場の選手が、行き過ぎた指導にも「必要だ」と思い込み、そうしなければ勝てないという『洗脳』にも似た感覚的に歪んだ考え方が根強く残る

30

体罰・暴言がやめられない理由（指導現場）

信頼関係があれば、体罰・暴言も有効な指導法である。

体罰・暴言は絶対悪ではなく、時と場合によつての必要悪だ。

自分の現役時代に、加えられた体罰・暴言には意義があった。

保護者から「やってくれ」とお願いされている。

組織(学校・企業)のために、目先の結果(勝利)を残さなければならない。

手っ取り早く、選手が変わり、結果が出せる。

体罰・暴言は悪いことだと解っている

31

このような人たちに
私はこう伝えたい

32

体罰はドーピングである

どんな背景や、どんな理由があったとしても、
薬物使用と同じでその後の人生に影響し、
「行った瞬間に終わり」という時代になった

33

暴言は“いじめ”である

「大人から子どもへのいじめ」を容認するのか
見て見ぬふりをするのか

34

グループディスカッション②

どの**言葉**が印象に残っていますか？

ご感想・体験談を交換下さい

35

体罰・暴言をやらないでほしい理由

★ 子どもを守る

< 絶対正論として >

・脳科学の研究分野において、身体的虐待(体罰)、心理的虐待(暴言)によって、脳への悪影響を指摘する科学研究論文が多数報告され始めている。
ー幼少期における繰り返しの体罰により大脳新皮質の前頭前野の約19%が萎縮した

・体罰や暴言によって「道を外れなかった・成長した」子どもよりも、その何倍、何十倍も「不幸せになった」子がいる現実を、体罰暴言肯定派は知る必要がある。

36

体罰・暴言を過去に経験した指導者へ

貴方の経験や記憶を一切否定しません。
貴方には体罰・暴言は有効な指導法だったと思います。



しかし、
それが、今の時代においても、
自分とは異なる「他人の子ども」である選手達にも
有効かどうか、いま一度、考えて欲しい。

37

体罰・暴言をやらないでほしい理由

★ 自分を守る

すぐに訴えられる時代になった。
価値観が多様化し、様々な保護者が存在する。
→理解者ばかりではない。隠蔽は無理。
一般観客がSNSに直ぐに映像投稿する。
映像は闇業者が売買し、何年も保管している。

**他人を育てるために、
自分の人生を捨てますか？**

38

体罰・暴言をやらないでほしい理由

体罰暴言そのものは悪である！



体罰暴言をする指導者は
悪人なのか？

39

体罰・暴言をやらないでほしい理由

★ 指導者を守るために

⇒環境で防ぐ

< 第三者の目 > ・閉鎖的な時空間による絶対的権力を生じさせない

< 保護者の目 > ・我が子は家族で守る

⇒勇気で防ぐ

< 指摘の声 > ・おかしいと思ったことには声をあげる

⇒教育で防ぐ

40

一般大学生の感想①（体罰・暴言を肯定する内容）

「体罰・暴力」は一部肯定されるべき側面があると感じた。私は中学時代の部活動で監督に暴言・体罰をミスする度にされていた。しかし、部活時間外に監督と2人きりになった時は、丁寧な口調で改善点を教えてくれたり、エースとして活躍してもらいたいから厳しく指導している等語って貰い、自分もより一層期待に応えるように練習に力が入るようになった。監督の口から「なぜ、何のために」という理由の説明があったからこそ、期待されている実感があった。

…。そんなに怖い先生であれば嫌いになるのかと思いきや、彼女たちは先生が好きで中学校卒業後もその先生と食事に行ったり交流があると言っていました。人格を否定したり心身に大きなキズを負ったりするような暴言・暴力は断絶すべきだと思います。しかし、世の中に出ていくとある程度の理不尽はいつでもどこでも存在しています。それに耐え得る社会勉強として、スポーツにおける厳しさ、言葉の暴力ではなく圧力が必要なのではないかと思います。

(琉球大学一般教養科目「健康スポーツ科学2018/12/13」受講学生による授業コメント抜粋)

41

一般大学生の感想②（示唆を与える内容）

私が他に受講している社会学概論という授業で「影響力と暴力」というテーマがありました。その時に思ったのは、「影響力は広い範囲を劇的に変えることができ、暴力はある特定の人・人々を恐怖で変えることができる。暴力を行う人は、影響力で変えることが出来るにも関わらず、最も早い方法として暴力を選んでるのではないかと」いうことでした。スポーツ指導者が行うのは、手取り早い暴力などではなく、自らの行動・発言などによって選手を内側から変えていくことなのではないでしょうか。

(琉球大学一般教養科目「健康スポーツ科学2018/12/13」受講学生による授業コメント抜粋)

42

大学トッププレイヤーの感想①

受講して変わったと感じた点は、体罰についてです。元々、私は体罰において肯定派の人間でした。それは自分が体罰を受けて良い方向へと変わった経験があるからです。しかし、それは自分だけの経験論で、全員が全員変わるきっかけにならないのだと感じました。指導される原因が明確であり、必要最低限の体罰であっても受け取るのは他者であり、感じ方は人それぞれであると感じました。現に、講習会に参加した生徒は、体罰経験の有無関係なく否定派が圧倒的に多い印象を受けました。講義でもあったように明治や大正時代では戦争が当たり前の世界であったが、平成では戦争など考えられません。教育現場でも同様で、時代のニーズにあった指導をしていかなければいけないと感じました。

体罰をしてまで勝利へ導こうとする指導者の意図が私は分かりません。暴力だけでなく、言葉でも心を傷つけて勝っても、選手は嬉しくないと思います。よく「そのおかげで勝てた」という親や選手がいますが、本物の喜びに気付いていないと思います。結局は自分だけの力ではないと思います。

(JSPC公認コーチ資格免除適応コース最終検定試験2019/02/02受講学生による振り返りコメント抜粋)

43

スポーツ指導者の感想①

本校の生徒はとても真面目でおとなしい生徒が多いのですが、主体性がなく勝負事に関して消極的でこちらが求めているものとのギャップが大きく、いかにモチベーションを上げるかが毎日の課題となっています。現在は生徒主体で練習を組み立てる形に切り替えてきましたが、この形態だと結果が出るまでに時間がかかり、高校の部活動は実質2年間しかないなかで今の形で良いのだろうかとも思いながら現在に至っています。今後は、今回指導していただいたことを自分なりに落とし込みながら模索していきたいと思います。

体罰はしつけや教育ではなく、調教と捉えています。痛みや恐怖で行動を変えることは即効性があり、確かに手取り早く結果を出す方法だとは思いますが、体罰肯定派の方の意見も、わからなくありません。しかし、その体罰が他の方法ではダメだったのかということも疑問におもいます。信頼関係があったから、受け入れられたという意見があるなら、信頼関係があれば体罰ではなく、他の指導でも同じような効果が得られたのではないかと思います。今後、体罰は無くなる方向に進むでしょうが、必要なのは体罰がいけないということではなく、体罰以外の指導方法を学ぶということだと感じます。

(日本ハンドボール協会指導委員会全国研修会2019/02/17振り返りコメント抜粋)

44

スポーツ指導者の感想②

2/23(土)の講習会を受講させていただきました。自分の体罰の考え方が変わりました。自分も学生時代に体罰を受けました。しかし顧問の先生との信頼関係もあったため、それが正しく、「これが青春!!」と美談になっていました。

しかしそれは、先生の熱心な指導とある程度の成績を収めていたからだ受講し終えたいま、強く思います。私もある意味洗脳されていたなと感じました。

私が指導をする上で最も大切にしていることは、挨拶やマナー等、また自ら考え動くことです。子供達が将来社会にでていくときに指示待ち人間にならず、自立し、自ら行動できる大人に育ってもらうためにも体罰はあってはならないと強く思いました。またこういった話やお互いの意見を指導者の中で共有し、様々な視点から、指導や体罰についてこれからも深く知っていききたいです。

(沖縄県スポーツ指導者研修会2019/02/23振り返りコメント抜粋)

45

この講義を受講した後のコメント①

いまの時代何をしてもハラスメントと言われ生きにくさを感じ、もう、なにも出来ないんじゃないかと思わされます。体罰・暴言に関して正直肯定的な見方をしていました。それは自分が受けた事がありましたが、体罰をしてきた先生方や指導者に何も恨み等はなく指導していただいてありがとうございますという気持ちしかありませんでした。なので、体罰は時には必要なのだと思っていました。信頼関係やコミュニケーションが図れていると、お互いが理解しているので成り立つと思っていました。もしかしたら、体罰・暴言に関して自分が受けてきたことを美化して同じことを選手にしてきたのかもしれない。

信頼関係やコミュニケーションを取りお互いが理解した上で体罰・暴言は成立すると思っていました。ですが、それならもっと他のやり方があったかもしれません。他の方法がわからないから体罰に走ってしまう。指導力不足です。体罰=ドーピングという、言葉を聞き考えさせられました。言葉かけや話し合いで解決していく方法を勉強していかなければいけないと思いました。

今、平成から次の時代に変ろうとしています。今まで自分が受けてきた指導、してきた指導を振り返り、時代にそった非常識にならない指導をしながら子どもたちと共に成長していきたいと思っています。時代遅れの指導者にならないために、体罰やハラスメントのない指導をし、今日の講演を同僚や同じ指導者で共有していきたいと思っています。

(沖縄県スポーツ指導者研修会2019/02/23振り返りコメント抜粋)

46

この講義を受講した後のコメント②

私は、今までに体罰を受けたこともなければ、暴言を言われた記憶もありません。それを恵まれてと思ったことはないし、『否定派』『肯定派』どちらでもなく、わたしはあえていうなら、『しない派』でした。私のまわりには体罰を受けたことがある子はたくさんいます。試合で使ってもらったり、結果を残したような子は、その先生のことを今でも尊敬していい関係を保っているような気がしますが、試合で使ってもらえなかったり、いい結果が残せなかった子は自分のためというのがわかっている、その先生のことを十数年たった今でもおそれている、会いたくない、その先生もハンドボールも嫌いと思っています。私は指導者として、そうなりたくないなと感じたし、体罰を受けたことがない分、体罰の必要性を感じなかったし、当たり前にしてませんでした。肯定的な意見(その子のため、そうしなきゃ伝わらない)というのわからないんですが、今回の講義の中にあつた、体罰によって幸せになる子もいるかもしれないが、不幸せになる子の方が数十倍多いということにすごい共感できたり、実際に脳が萎縮するなどというデータを聞いて、なにより【そういう時代】という言葉が腑に落ちて、しない派から否定派にかわりました。私はまだ指導者になって5年目です。若いし、平成生まれなので、『昭和』や『昔』を話でしか聞いたことがありません。『時代に追いつく』ということをはとんどしなくていいので、やりにくい時代だなと感じることもほとんどないと感じます。今回指導委員長という発信する立場にならせていただき、何が出来るんだろうと思っていましたが、若いからこそ発信できることもあると思いました。これからは時代ともにいろんなことが変化していき、常識が非常識になっていくと思います。自分の思いや考えもありますが、それが絶対ではなく、時代に合わせた柔軟な指導ができるようになりたいと思いました。

(沖縄県スポーツ指導者研修会2019/02/23振り返りコメント抜粋)

47

グループディスカッション③

どの言葉が印象に残っていますか？

ご感想・体験談を交換下さい

48

最後に

48枚のスライドを使って100余の内容を紹介しました。
ねらいは「自分のこれまでを振り返る」ことでしたが、
自分の価値観を見つめ直すことは出来ましたか？

「自分のこれからをどうするか」については、
正しい答えは1つではありません。

置かれた環境と、目の前の生徒の違いによって、
自分で見付けていくしかありません。

49

最後に

今日の研修会の内容は、先生方一人一人によって、
捉え方も感じ方も様々であったはずですが。
それは、皆さんの自己経験が全て異なるからです。

「魔法の練習メニュー」なる練習法は実在しないのと
同じで、先生方は工夫し続けなければなりません。

今日の研修は“まとめ”ではなく、その“始まり”と
しなければなりません。研鑽を重ねる必要があります。
1 or 2 /100でもご自身のきっかけになれば幸いです。

50